

建設業界の役割と魅力について

令和 3 年 7 月 12 日



株式会社 飯作組

(1) はじめに

建設業は大きく分けると「土木工事」と「建築工事」に区分され、仕事の内容には大きな違いがあります。

・土木工事とは。。

道路やトンネル、河川や橋、水道などのインフラ整備（社会資本整備）があり、私たちが生活するために必要な生活基盤を整備する工事です。その多くは、公共工事として発注されています。



・建築工事とは。。

住宅・学校・病院などの建物を建築する工事になります。



※ 写真は当社施工実績より抜粋

(2) 建設業の特徴

- **受注産業**である
顧客の注文を請負って工事を完成する受注産業です。
- **個別生産**である
固有の土地に密着して建設するので、同じ内容のものはありません。
- **移動産業**である
工事現場を移動しながら生産します。
- **屋外産業**である
工事現場の大半が屋外のため、天候等の自然影響を受けやすい産業です。
- **チームワーク産業**である
建設現場は、元請企業のもと、工種毎に専門技術を持つ下請企業がチームを組んで、建設物を完成させます。

現場監督

現場監督として、工事の最初から最後までかかわって、スケジュールを立てたり、品質をチェックしたり、コストや現場の安全を管理したりします。



技能者

多くの異なる技能を組み合わせることで一つの建設物を造ります。それぞれの職種内だけでなく他職種との連携も大切です。



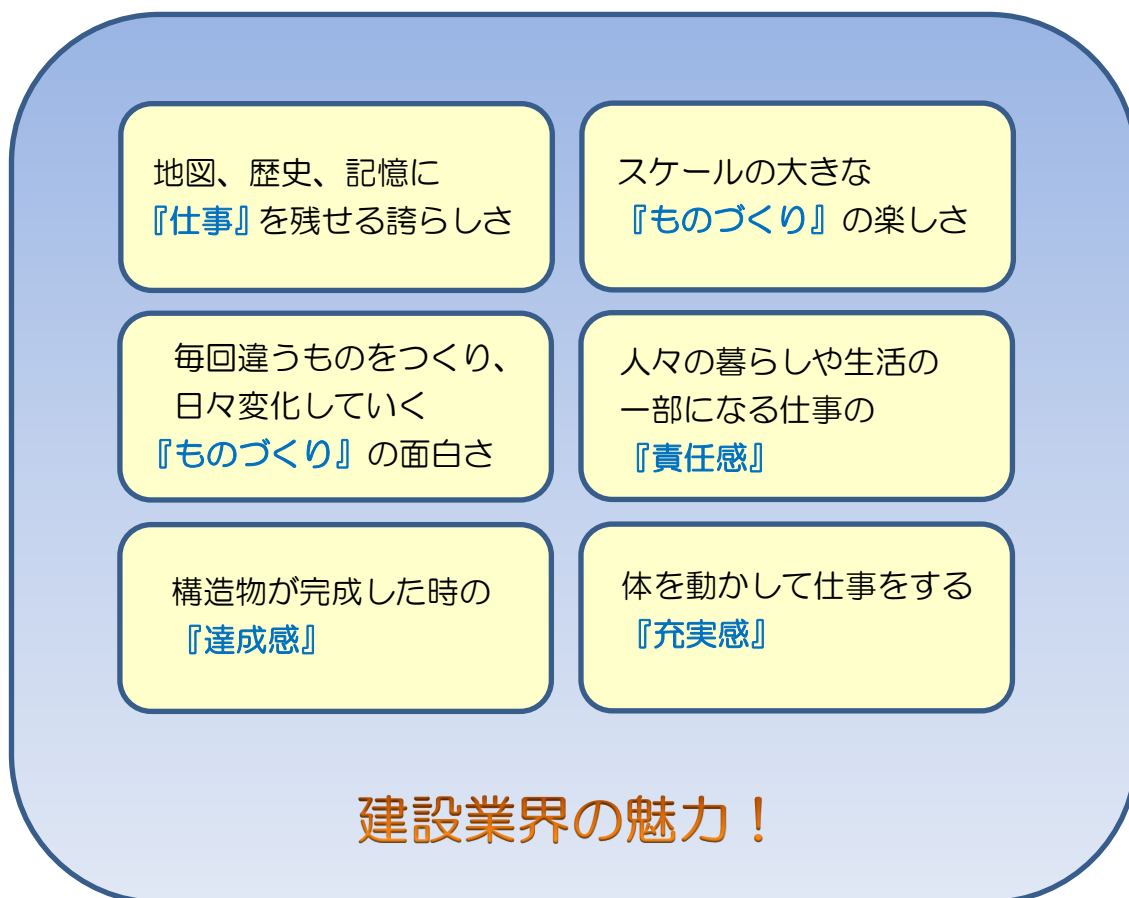
建設現場では、現場監督の下多くの技能者が仕事をしており、一つのチームとなって建設物の完成を目指します。

(3) 建設業の基本とその魅力

建設業界は大変な仕事というのは事実ですが、ほかの仕事にはない魅力とやりがいがあります。そこで、建設業界が担う役割と建設業界の基本を説明していきます。

- ◇ 建設業界が社会に担っている役割 日本は多くの自然と美しい四季がある国です。しかし、台風や豪雨、豪雪、地震などの自然災害が頻発するため、日本の人々が安心安全且つ快適に暮らすためには建設業界の存在が欠かせません。

たとえば、道路・河川・橋梁の社会資本整備、住宅・病院・学校などの生活に関わる施設、災害発生時の復旧・復興など、建設業界は暮らしのすべてに役立つ仕事を担っているのです。



(4) 建設業界で得られるスキル

- ◇ 多くの人員と1つのプロジェクトに取り込むことで、課題解決能力や協調性が養える建設現場はさまざまな問題が起きることがあります。危険を伴う現場での事故リスクや、天候との兼ね合い、近隣住民のクレームなど、細心の注意を払わなければなりません。問題が起きた場合は、工期や予算に支障がでないように最善策を考える必要があるため、課題解決能力が自然と養われます。

大規模な建設事業では、多くの人員が関わるプロジェクト形式で仕事を進めます。さまざまな立場や職種、幅広い年齢層の人員と協力し互いの業務を支えながら、建物や構造物を製作するのがプロジェクトの目標です。そのため、さまざまな人員とのチームワークに必要な協調性がつきます。

(5) 建設業界の動向について

- ◇ 建設業界は技術者の高齢化が進み、その人員が一気に減ることが予想される現在の建設業界は、作業員、施工管理者を含め、技術者の高齢化が進んでいます。ゆくゆくは現在の技術者が一気に引退するため、人手不足が加速することが大きな課題です。
- ◇ 人手不足を解消すべく、国土交通省では待遇改善を軸にした働き方改革を打ち出しています。建設業界に興味を持つ若者の応募者を増やすため、給料を高く設定する、社会保険の導入などを進めています。また、週休二日制の導入や長時間労働の是正、IoTや新技術導入による生産性の向上など、建設業界は働きやすい仕事に変わりつつあるのです。このように、人手不足にある建設業界では、若者の力を求める需要が特に高まっています。給与や休日などの待遇面の改善が、今後さら浸透することが期待されるため、建設業界は将来的にも期待が持てる仕事となるでしょう。